



市・有形文化財 美術工芸品（歴史資料）

近世武具きんせいぶぐ 魚津市小川寺（個人）

千葉県在住の荒木英一氏が長年収集してきた武具のうち、江戸時代に製作された鎧よろい、兜かぶと、槍、鉄砲などが魚津歴史民俗博物館に寄託された。武具の中には、前田家ゆかりの品とされるものも含まれており、「黒漆塗り和冠変わり兜」や「刀筒」には梅鉢紋が描かれ、富山藩前田家所用と伝えるものである。

魚津は江戸時代、加賀藩の奉行所が置かれ、藩の倉庫として使用されていた魚津城を中心に城下町が形成されていた。しかし、度重なる大火などによって藩政期の様子を知る資料は多くない。指定された武具29点はいずれも江戸時代に製作されたものとしては保存状態が良く、近世（江戸時代）の武家文化の一端を知る上でも貴重な資料である。